

調査報告概要表

作成日 2008年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地 (電話番号)	鹿児島市坂元町161-4 (電話)099-247-5050

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(20年11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 13 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	18 人
非常勤	0 人
常勤換算	17.5 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	軽量鉄骨2階建て造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中村(哲)産婦人科・内科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の高台の住宅地にあり、広々とした敷地内にデイサービスと隣接して建っている。管理者をはじめ職員は、地域に開かれたホーム作りに努め、地域の行事や地域活動に積極的に参加している。家族の来訪も多くあり、地域の方々からいつでも気兼ねなく訪問できるような明るく親しみのある雰囲気作りを心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題はない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	地域住民の代表や行政職員、利用者本人と家族の出席のもと、2ヶ月に一度定期的に開催されている。利用者の状況や行事について報告するとともに、地域交流の場としても役立っている。また、出席者それぞれの立場からの意見をもらい、運営に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月家族への報告は書面をもって行っており、年に2回の家族会の際に家族間交流をしていただき、意見要望を引き出すようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会員として積極的に地域行事には参加し、地域の高齢者をホームに招待することもある。隣接するデイサービスの利用者との交流も楽しんでおり、開かれたホームとなっている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念を考案し、地域との関わりを大切にしている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、朝礼時に理念の具体的な実践について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会員として地域行事に参加したり、地域の高齢者のお祝いをホームで行うなど様々な形で触れ合っている。また、隣接のデイサービスセンターの利用者との交流も楽しんでおり、開かれたホームの実践に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の外部評価では改善課題の指摘はなかったが、更なる見直しを行っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の住民、行政、消防関係者や利用者家族の出席のもと定期的に行い、利用者の状況や行事連絡をするるとともに地域交流の場としても役立っている。また、出席者それぞれの立場から意見要望をもらい運営に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鹿児島市主催の研修会等に参加し、日頃から連携の取りやすい間柄をつくり、相談のおりには担当窓口に向くようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月書面をもって報告しており、3ヶ月に一度はホーム便りで写真を掲載している。また、日々の生活を撮影したものを編集し、家族へ配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回開催する家族会のおりに、家族間の交流をしていただき意見要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。担当者会議でもなるべく発言していただくよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内勉強会を毎月行うとともに、鹿児島県グループホーム協議会の研修へも積極的に参加している。年間を通しての研修計画や職員の段階に応じた教育計画についてはまだ十分とは言い難い。	○	ケアの質向上のために、ホームとしての計画的な研修が望ましい。今後は、職員の段階に応じた育成計画についての検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ訪問研修をして相互に交流を図っている。グループホーム協議会の親睦会にも積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に家族だけでなく利用予定者本人がホーム見学をすることを基本として、サービスの説明を行い納得した上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜を職員と利用者がともに栽培したり、日常動作を共有することで共感や支えあいの関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。日常の態度や表情から思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画作成をしている。飲酒などの嗜好物についても検討し計画へ反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一度の担当者会議にて計画の見直しを関係者と行き、状態によっては1～2ヶ月ごとに見直している。評価は3ヶ月ごとに行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態によって受診介助を行っている。また、家族来訪時には希望により屋食等を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を明確にし、サービス開始時に家族への説明を行っている。状態の変化によって、主治医と話し合い段階的に説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように指導している。記録の取り扱いは適切になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、外出や交流などその日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳等は能力に応じてしてもらい、落ち着いたBGMが流れる中、和やかな雰囲気ですべてを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるものの、利用者の体調と希望に応じて柔軟に入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事や個別の趣味を楽しんだり、散歩をはじめ様々な外出による気晴らしを行っている。庭や花壇の水まきやホーム便りの地域への配布など役割を持って生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩や外気浴など日常的に屋外に出るほか、地域行事やホーム行事にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っておらず、職員は利用者の状態を把握し、外出傾向がある場合はさりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回の避難訓練を消防関係者の協力のもと行っている。地域住民にも訓練の知らせを行い、協力を訴えている。しかし、夜間を想定しての訓練はなされておらず、今後の課題としている。	○	職員が一人のときの夜間を想定した避難訓練についての取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下の状態により、食事の形態を変える支援を行っている。摂取量や水分量、体重の記録も個別に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外光が入りやすい明るく家庭的な共用空間となっており、生活感や季節感が感じられる。利用者は、椅子やソファなど思い思いの場所でくつろいでおり、廊下も広々としている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や電化製品の持ち込みがなされ、仏壇や趣味の品など利用者の馴染みの道具が見られる。		